

## SNSの誹謗中傷について

3年2組14番 清水七緒

Keyword: 「SNS」「誹謗中傷」「インターネット」「リテラシー」「メディア」

### 1. はじめに

近年、ニュースやテレビなどの様々な場面で「誹謗中傷」という言葉をよく聞く。親世代、ましてや「誹謗中傷」は私たちのようなZ世代と言われる幼少期よりSNSに触れている世代にはとても身近な言葉である。そして自分自身や友人、家族といった周囲の人間もいつ加害者、被害者になってもおかしくない問題である。2024年1月1日に起きた石川県での地震に関連して、被災地の映像がSNSに投稿されていた。そこには励ましの言葉と共に、海外の方から心のないコメントが数多く寄せられていた。その言葉は石川県や地震の被害者に対してというより、私たち日本人や日本に向けての誹謗中傷に見えた。あまりにも身近で当たり前すぎる故に、どこか他人事だった「誹謗中傷」が間接的ではあるが自分たちに向けられた途端、一気に自分事であると感じた。そしてこのような誹謗中傷を減らしたいと考えた事からこのテーマに至った。

### 2. 序論

私が初めに誹謗中傷は実際にどれくらいあるのかを調べたところ、総務省が運営委託する「違法・有害情報相談センター」に寄せられた相談件数は8年連続で5000件を超え、2021年には6000件を超えており2000年より増加傾向にある、これは相談件数なので相談されていないものを含めると、実際にはより多くの誹謗中傷が起こっていると考えられる。また総務省の情報通信白書によると、2019年の日本のSNS利用者数は、820万人から2023年には1億580万人と増加傾向にある事がわかった。多くの人が被害に遭っているSNSでの誹謗中傷を減らすために何ができるのかという問いを主とし、どのSNSで実際どのくらいあるのか、どんな誹謗中傷があるのか、高校生や中学生の誹謗中傷に対する関心・意識はどのくらいあるのかという副次的な問いを設定した。そしてそれぞれ調査やアンケートを行い分析を行った。また、私はこの探求において、誹謗中傷の基準を明確にしておく必要があると考え基準と分類を次のとおり定めた。

---

1、脅迫・恐喝・侮辱 2、容姿や人格 3、差別 4、セクハラ  
5、呪い・排除 6、加害者への励まし 7、守るふりをして責める 8、デマを流す 9、被害者の  
周りへの悪口 10、過度ないじり  
(Van Hee et al. (2018)) (「ジャーナリストへの誹謗中傷の実態」国際大学グローバル・コミュニケーション・センター ) 参考

---

### 3. 本論

まず、私はどのSNSで実際どのくらいの誹謗中傷が起こっているのかを調査した。対象としたSNSは「X」、「Youtube」である。芸能に関する話題と政治、政策に関する話題についてそれぞれ最新のコメントから100件を分析し、序論で提示した基準に分類した。その結果が次の二つの表である。

政治ニュース	X	Youtube	合計
脅迫・恐喝・侮辱	1	7	8
容姿や人格	0	2	2
差別	0	0	0
セクハラ	0	0	0
呪い・排除	2	2	4
加害者への励まし	0	0	0
守るふりをして責める人	0	0	0
デマを流す	1	0	1
周りへの悪口	0	0	0
過度ないじり	0	0	0
	4	11	15

芸能ニュース	X	Youtube	合計
脅迫・恐喝・侮辱	9	7	16
容姿や人格	6	7	13
差別	3	2	5
セクハラ	0	0	0
呪い・排除	0	6	6
加害者への励まし	0	1	1
守るふりをして責める人	0	0	0
デマを流す	1	1	2
周りへの悪口	0	0	0
過度ないじり	0	0	0
	18	24	42

結果として、芸能に関する話題の方が誹謗中傷が多かった。芸能人は有名であるがゆえに払わなければならない代償があるという「有名税」という言葉があるように、「芸能人になら何を言っても良い」と考える人が多いため、誹謗中傷が発生すると考える。また政治については不確定な事が多い事や、自分に関係のある話題であるためであるからか、自分の身や日本を不安に思うコメントが多く誹謗中傷的なコメントは芸能の話題よりも少ないと考える。また、その話題に対して自分ごとであるか、他人事であるかが、「誹謗中傷」の発生する基準となると分析する。芸能に関するニュースはコメントした人間から考えれば他人事であるために、誹謗中傷の数が多くなると考える。

また、私は不特定多数の人の目に入りやすいという理由から「X」の方が誹謗中傷が多いと考えていたが、実際のところ、「X」での誹謗中傷の合計が22件、「YouTube」が35件で「Yotube」が上回る結果となった。これについて、「YouTube」は動画を見て書き込むという動作があるため、より関心が高い人が集まる事、動画であることで情報量が多く、批判する内容が多いことが原因だと考えられる。ただし、SNSごとの特使も考えなければならない。「X」はリアルタイム性が高いSNSであり、私が調査したときのコメント欄が誹謗中傷が少なかった可能性もある。SNSの調査からは、どちらの話題においても、「脅迫・恐喝・侮辱」が合計24件で一番多く、「容姿や人格否定」が15件で2番目に、「呪い・排除」が10件で3番目に多い結果となった。これらの結果から、より関心の高い出来事や、他人事である出来事、その場に写っている人物に誹謗中傷が集まる事がわかった。

次に、私自身もあまり自分事だととらえていなかった、誹謗中傷を少しでも知ってもらうため、「SNSで人を傷つけないために」というプリントを作成し、校内で配った。同時進行で中高生の誹謗中傷への意識を調査するためのアンケートに関するリンクをプリントに記載した。配ったプリントは以下の通りである。

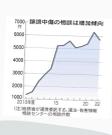
### SNSで人を傷つけないために



3年、理解と尊重を旨とする清水七瀬です。私はグローバル探究でSNSの誹謗中傷の意識の改善について探究しています。夏休みに入れば今以上にSNSに触れる時間が増えると思います。その中でもう一度、誹謗中傷について考えて、気を付けてくれたら嬉しいです！

Q1. 誹謗・誹謗中傷はどれくらいある？

誹謗中傷は8年連続で5000件以上、2021年には6000件以上の相談が。



Q1. どんな誹謗中傷がある？

見た目などについての誹謗中傷が多く見られた。また、いじりすぎると相手も傷つける原因になる。

Q3. どうしたら誹謗中傷を減らせる？

誹謗中傷を見かけたら反論したりせず、通報機能などを使って運営に知らせる。また、自分が加害者にならないためにもコメントや投稿をする前に相手を傷つけるような言葉を使っていないかを確認するなど、一人一人が意識してSNSを利用することがとても大切！

アンケートもよろしくお願ひします！

今の文面が誹謗中傷になるのがチェックしてみよう！

- 侮辱や恐喝に当たるような悪言
- 過度ないじり
- 差別に当たるような言葉
- 相手の親など周りの人への悪口
- 本当か分からないうわさを広めてないか

アンケートで調査した項目は大きく分けて二つである。内容は誹謗中傷についての印象、配布したプリントとそれをみたことによる意識の変化についてだ。まず、「どのSNSで誹謗中傷を見た

か」という問いに対して、「Instagram」と「Youtube」共に6票で同率一位、「Tiktok」が5票で二番目に多く、次に「X」、「lineboom」と続いた。この調査に伴って、私は日本国内の世代別SNS利用者数ランキングを調べた。10代では一番に「LINE」二番目に「YouTube」三番目に「Instagram」四番目に「Tiktok」五番目に「X」という利用率であり、アンケートで多いと答えられたものとほぼ同じ順番であることがわかった。これらのことから、利用者数が多いほど誹謗中傷は多くなると考えられる。しかし、その後の記述欄には、「Youtubeが比較的誹謗中傷が少ない印象がある」と書いた人がいたことからその人が見るコンテンツによって多少のばらつきはあると思われる。次に、「このプリントを読んで何は意識は変わったか」という問いについては、意外と誹謗中傷が多くて驚いた、SNSの怖さを知った、暴言や悪口以外でも誹謗中傷になることを知った、いつの間にか傷つけないように気をつけようと思った、などが意見として挙げられた。ここから、意外と誹謗中傷の怖さや、誹謗中傷の定義も曖昧で理解していない人がいる可能性があると考えられる。

#### 4. 結論

これらのことから、より注目が集まりやすい出来事や身近に感じる出来事に対して誹謗中傷は起こり、利用者数が多く、より多くの情報が載せられるSNSがその場になりやすいことがわかった。今の中高生は誹謗中傷を知っている人は多いがまだまだ定義が曖昧であり、自分が加害者になっているかもしれない可能性を理解していない人が多い事がわかった。また、誹謗中傷にはストレスも大きく関係していると考えられる。したがって、誹謗中傷の怖さや、加害者になる可能性、誹謗中傷の定義をより明確にわかりやすくし、伝えていく事が今後必要であると考えられる。

#### 5. おわりに

私はSNSの誹謗中傷について探求していく中で、物事を多角的に捉えることがとても大切な事だと感じた。また、私は1人で探求活動を進めていたので、先生方も一緒には考えてくれるが結局行動するのも、決めるのも、考えるのも自分1人でやらなければいけなかったことから、思考力や判断力、行動力が以前よりも身についたと感じている。これからは、この探求で培った知識や経験、能力をより伸ばしていけるよう頑張りたいと思う。そして、SNSの誹謗中傷についてもこの二年間で調べたことが全てではなく、変化することも、まだ私が知らないこともたくさんあると思うので、日々探求を続けていきたいと思う。

#### 6. 参考文献・出典

・「ネット上の誹謗中傷とは 相談件数8年連続で5000件超」『日本経済新聞』。

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOJA0823P0Y4A100C2000000/> 2024年1月9日

・Cynthia Van Hee et al. (2018) *Automatic detection of cyberbullying in social media text*  
PLOS ONE

<https://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0203794>

・山口真一 (2022) 「Innovation Nippon 2022ジャーナリストへの誹謗中傷の実態」『国際大学グローバル・コミュニケーション・センター』

[https://www.glocom.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/2022IN\\_report\\_journalist\\_digest.pdf](https://www.glocom.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/2022IN_report_journalist_digest.pdf)

・「海外で人気のあるSNSとは | ユーザー数や使われている国・特徴」『Cross Marketing』

[https://www.cross-m.co.jp/column/digital\\_marketing/dmc20240920](https://www.cross-m.co.jp/column/digital_marketing/dmc20240920) 2024年9月20日

・「第Ⅱ部 情報通信分野の現状と課題」『総務省』

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/html/nd217100.html>

2024年